

令和元年度奈良県防災会議 議事概要

- 日時 : 令和2年2月6日(木) 14:00~15:00
- 場所 : 奈良春日野国際フォーラム 薨 レセプションホール(奈良市春日野町101)
- 出席委員数(代理含む) : 53名(全61名、会長である県知事を含む)

1. 開会挨拶(奈良県防災会議会長 荒井知事)

会議にお集まりいただき感謝する。

防災については、みんなで備えをすることが肝心。また、備えにはソフト・ハードの両面がある。ハード対策だけでは不十分で、ソフト対策(特に日頃の情報共有)も重要。本日は、そのための会議としての側面もある。

2. 事務局より説明(奈良県防災統括室 中西次長)

配付資料に沿って説明。

3. 質疑応答

(1)奈良県看護協会 平委員

看護協会では、災害支援ナースを126名登録(令和元年12月末現在)している。

県の修正案では資料3の184番に記載いただいているが、災害支援ナースは非常に防災への意識が高く、たくさん研修を受講いただいている。

しかし、災害支援ナースとして派遣されるには、勤務先の許可が必要で、いざ災害となると勤務先の病院も多忙となることから、なかなか許可が下りず派遣されない看護師も多くいる。いざというときの助け合いが困難になるため、ぜひとも病院協会やその他機関の方々に、災害支援ナースに登録する許可をいただくよう強く要請していただきたい。

看護師たちは非常に優秀で、活躍ができることから、県としてもお願いしたい。

(2)奈良県防災士会 植村委員

災害発生時の受援体制について、資料3の61番に、新しく災害ボランティア養成研修の実施について記載がある。昨年の台風第19号の後、全国からボランティアが集まった。現状は公的な災害対応と災害ボランティアとがセットで動いているのではないかと考える。

その上で、奈良県で大規模災害が発生した際に、災害ボランティアをどのように受け入れるかという視点が必要かと思う。現在の本文修正案では「養成研修の実施」程度の記載しか無いと思うので、県として災害ボランティアの受援はこうする、という記載があればよいのではないかと。

⇒中西次長 回答

今までは、災害ボランティアのコーディネーターの養成しか記載が無かった項目。防災士会の協力を得ながら、社協等と協同して支援をしていただいている。今回、研修や訓練に関する記載を入れたところ。

ご指摘いただいたように、受援は非常に重要な項目。熊本地震の際に、応援が大勢来たものの受援体制が万全でなかったために、必要などころへボランティアを上手く派遣できなかった実態がある。

奈良県でも受援マニュアルを作成し、市町村と一緒に受援体制の構築を試みている。その中に、ボランティアの視点を入れさせていただきたいと考えている。

⇒荒井知事 コメント

災害に対応する知恵は、いくらでも授かった方がよい。過去の他の地域で発生した災害からの教訓を奈良県においても活用する。それをわかりやすく情報共有できるかが課題。引き続き、災害が起こったときの知恵・教訓をどのように計画に落とし込むかの検討を加えていくので、ご協力をお願いしたい。

(3)奈良県栄養士会 中川委員

資料1の南海トラフ地震の3つめの部分において、学校における備蓄に関する項目がある。学校の中には保育所が含まれると思うが、保育所には幼児だけでなく乳児もいる。

「幼児」を「乳幼児」という記載に変えていただければと思う。赤ちゃんは母乳かミルクしか飲むことができず、それらの備蓄もお願いしたい。

数年前に外国産の液体ミルクに関する問題があったが、ここ最近は国産の液体ミルクも多く販売されている。賞味期限が半年と短い上に安全性の確保もしなければならないが、ローリングストックという形で、市町村と一緒に備えていただきたい。

⇒荒井知事 コメント

いわゆる災害弱者をどのように定義し、備えをするかという視点が必要。災害弱者はどういうことを想定しているか。また、後発的に弱者になってしまうケースもあるし、もともと災害弱者であるケースもある。これらを漏れがないようにカテゴライズして、対応を展開していきたい。賜った意見は反映したい。

(4)奈良県男女共同参画推進協議会 音田委員

資料1の被災者の健康維持の2つめの部分において、女性をはじめとする多様な視点といった標記があるが、文章的にわかりづらい。例えば、「避難所の運営には、女性を積極的に参画させ～」など、避難所づくりのリーダーとして女性を登用していただけるようなことを取り入れていただきたいと思う。

昨年3月に「女性視点の防災ハンドブック」を県で作成し、私も編集に関わらせていただいた。防災の準備、災害の対応、避難生活など、災害が起こったときにまずどうするかを、わかりやすくまとめている。また、スマートフォンのアプリでも閲覧することができる。非常によくできているものなので、これをぜひ県民の皆様にも広まるように周知いただきたい。

最後に、防災会議委員に女性が少ない。もう少し女性が増えたらよいのではないかと考えている。

⇒中西次長 回答

女性の視点ということで、「女性視点の防災ハンドブック」等においても委員には参画いただき、非常によいものがあったと思っています。

女性の参画についてご意見をいただいたが、検討の中で、女性・男性・LGBT 等がいらっしゃるなかで、できるだけ多くの意見を取り入れるという意味で、「女性をはじめとする多様な」といった表現にさせていただいた経緯がある。

(5)奈良県消防長会(奈良県広域消防組合) 高島委員

新旧対照表等において、文言の整理をお願いしたい。例を挙げれば資料3の183番で、「市町村は、～」と書いてあるが、現在県では消防の広域化が進んでいることから、「市町村または消防機関は、～」等としていただけるとよい。

(6)奈良 NPO センター 小島委員

先程音田委員の発言にもあったことと類似するが、子どもの参画についてもっと入れていただきたい。特に、中高生はボランティアとして被災地で活躍しているのを見かけたし、いろんなところできちんと組織作りできる子どもたちもいる。

子どもについて、保護する立場だけでなく、ともに防災に携わるものとして記載をいただきたい。

⇒中西次長 回答

実際、災害発生時に被災地における学生の役割が大きいと考えている。いただいた趣旨を踏まえ検討したい。

⇒荒井知事 コメント

計画は、丁寧に書くことはいくらやってもいいと思っている。

4. その他(奈良県防災統括室 中野主幹)

新型コロナウイルス感染症に関するチラシの紹介

県民におかれては、過剰に心配することなく、咳エチケット・手洗い等、予防を呼びかけていただきたい。県としても、関係機関等と連携しながら、拡大防止に向けて全力で取り組んでいく。

5. 閉会挨拶(奈良県防災会議会長 荒井知事)

本日はこのような計画でご了解いただいたということで、追加等については事務局にて検討させていただきたい。3月には、新たな地域防災計画として、県議会に報告させていただく。

今後とも、表現のわかりやすさや手引きの作成等については、防災会議のメンバーにも共有したいと思っているので、よろしくお願ひしたい。